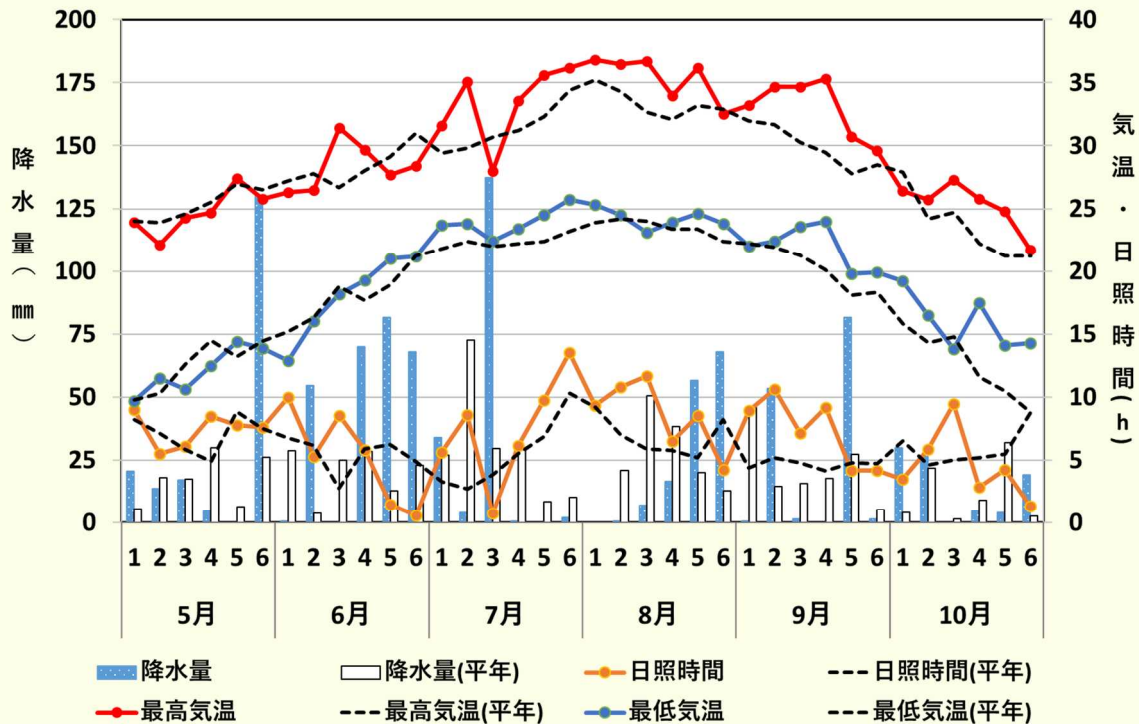




## 1 令和6年度水稻の作況状況について (農業試験場作況試験結果)

7月から10月の長期間にわたって平年を大きく上回る高温で推移した。最低気温も平年を超える状況が続き、35℃以上の猛暑日数数が過去最多となった。

降雨は6月中旬から7月中旬の梅雨時期と9月に集中した。降水量は平年を超える量となったが、7月中旬から9月上旬までは8月末の台風接近の影響を除いて降雨が少なかった。出穂後の高温や日照時間が長かったこともあり、成熟期は平年より早まった。



注) 気象グラフは気象庁の滝宮アメダスデータに基づいて作成。平年値は直近5年の平均値を表す。

### <令和6年度水稻作況試験生育調査結果：農業試験場>

区分	田植日	40日後(7/30)		幼穂形成 始期	出穂期	成熟期	成熟期		
		草丈(cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )				穂数 (本/m <sup>2</sup> )	稈長 (cm)	穂長 (cm)
R6	6/20	67.7	654	8/7	8/26	10/1	393	79.5	20.7
過去5か 年平均	6/20	69.8	711	8/6	8/27	10/3	457	82.9	18.9
差(比)		2.1	▲8%	1	▲1	▲2	▲14%	▲3.4	1.8

注) ▲は、短い、少ないことを示す。

### <作物統計調査 令和6年産水稻の作付面積及び収穫量：中国四国農政局>

- 全 国：作況指数：101「平年並み」 単収：540kg/10a(平年差：+3kg/10a)
- 四国地方：作況指数：101「平年並み」 単収：481kg/10a(平年差：▲1kg/10a)
- 香 川 県：作況指数：100「平年並み」 単収：491kg/10a(前年差：▲5kg/10a)

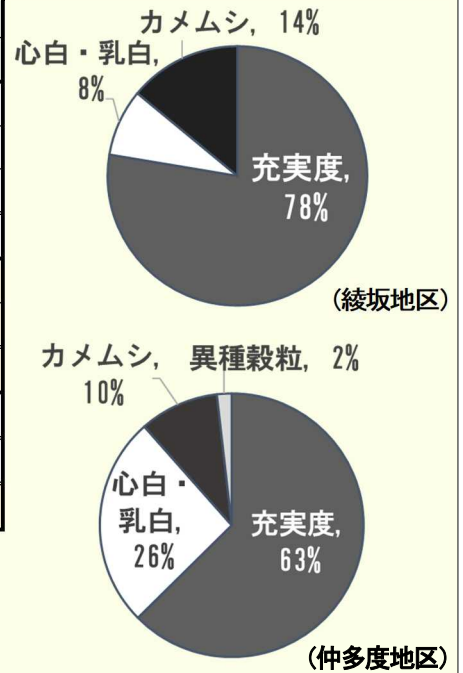
## 2 「おいでまい」JA 倉前およびカントリー検査結果 (令和6年11月30現在)

### ●等級割合

地区名	1等米比率(%)	
	令和6年度	(参考)令和5年度
大川	0.0	77.1
小豆	50.0	50.0
中央	78.2	60.8
東讃平均	77.4	61.0
綾坂	57.9	52.8
仲多度	52.5	78.9
中讃平均	54.0	70.7
三豊・豊南	35.6	42.4
西讃平均	35.6	42.4
県平均	59.9	68.5

倉前およびカントリー検査における1等米比率は、  
令和5年産から綾坂地区では5.1ポイント向上し  
仲多度地区では26.4ポイント低下した。

### ●落等理由の割合



### ●主な落等理由

今年産は令和5年産と比較して、**心白・乳白による落等が大きく増加**した（綾坂地区：+6.7ポイント、仲多度地区：+25.0ポイント）。地区ごとに比較すると綾坂地区ではカメムシ、仲多度地区では心白・乳白による落等が多い傾向があった。また、綾川町、まんのう町、善通寺市などの中山間部が多い地域では、カメムシによる落等が多く、坂出市や多度津町など沿岸部の地域では心白・乳白による落等が多くなった。

### カメムシ対策

環境整備と薬剤防除で、カメムシを寄せ付けないよう対策しましょう。

#### ①草刈りで住処をなくす

出穂10日前までに畦畔等の草刈を行い、カメムシ類の住処となる場所をほ場周辺からなくす。

#### ②2回の適期防除

出穂期頃と出穂後の2回、適切な時期に薬剤防除を行う。

#### ③水稻収穫後は、速やかに耕起する

カメムシのエサとなるひこばえをすき込み、冬のえさ場や住処をなくす。



<穂をつけたひこばえ>

### 心白・乳白対策

出穂前後の高温や日照不足、籾数過多などによって心白・乳白が発生するため、稲の活力を保ち、被害を軽減しましょう。

#### ①土づくりのために有機物や土壌改良資材を投入する

稲わらや麦わらは焼かずにすき込む。ケイ酸や鉄、マグネシウムを含む土壌改良資材を散布し、地力を向上させ、根の活力を維持する。

#### ②過繁茂を防ぎ、適正な籾数を目指す

過繁茂や籾数過多になると粒の充実が悪くなるため、極端な疎植を避け、適正な植付本数や田干しによって適正な籾数を目指す。

<目標とするおいでまいの姿>

稈長	77cm程度
穂長	19cm程度
穂数	22本/株程度
籾数	28,000粒/m <sup>2</sup> 程度

### ★ マイスターチェック ★

□ 今年の結果をもとに土づくりを行い、来年の作付け計画を立てましょう。